



クオリティインディケーター(QI)成果報告

〔小児循環器・成人先天性心疾患センター〕

指標名

先天性心疾患術後周術期死亡率

目標・ゴール

先天性心疾患術後周術期死亡率 0%

目標・ゴール達成による効果

複雑な先天性心疾患症例も含め、安全に心臓血管手術を実施していることを内外へ提示できる。

他の医療機関から小児の心臓手術目的に紹介いただく際の指標となる。

目標・ゴールに対する成果の状況

2021 年 96 例中 1 名

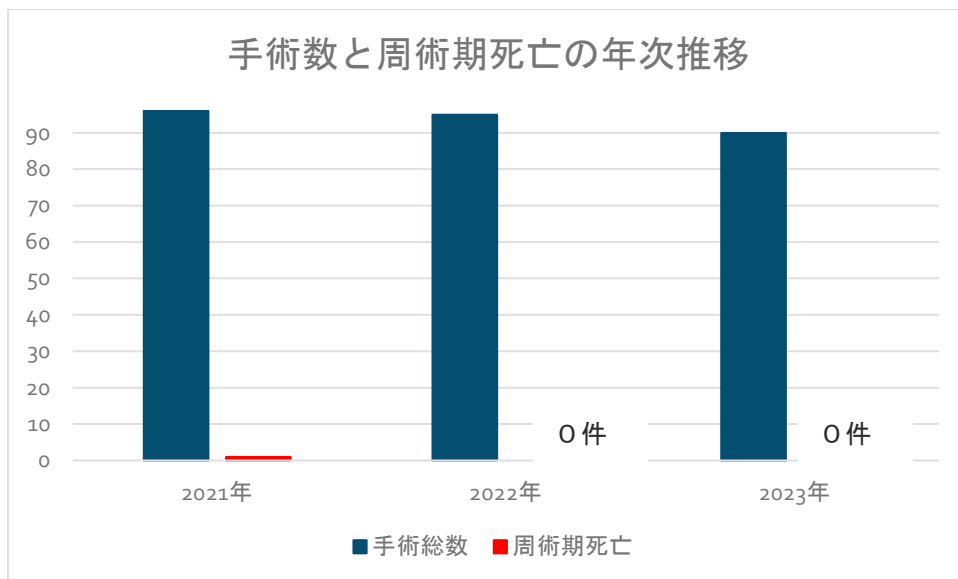
$1/96 = 0.010$, (1%)

2022 年 95 例中 0 名

$0/95 = 0\%$

2023 年 90 例中 0 名

$0/90 = 0\%$



目標・ゴール達成度

□S :大幅に目標を上回った

□A⁺:目標を多少上回って達成

☑A :目標を達成

□B⁺:目標を少し下回った

□B :目標を下回った

□C :目標を大幅に下回った

□ー :外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの課題・改善策

手術死亡 0%が達成された。今後も同様に慎重に診療を行っていく。



クオリティインディケーター(QI)成果報告

〔小児循環器・成人先天性心疾患センター〕

指標名

先天性心疾患に対する心臓カテーテル治療の件数（年間）

目標・ゴール

先天性心疾患に対する心臓カテーテル治療件数 100 件/年以上

目標・ゴール達成による効果

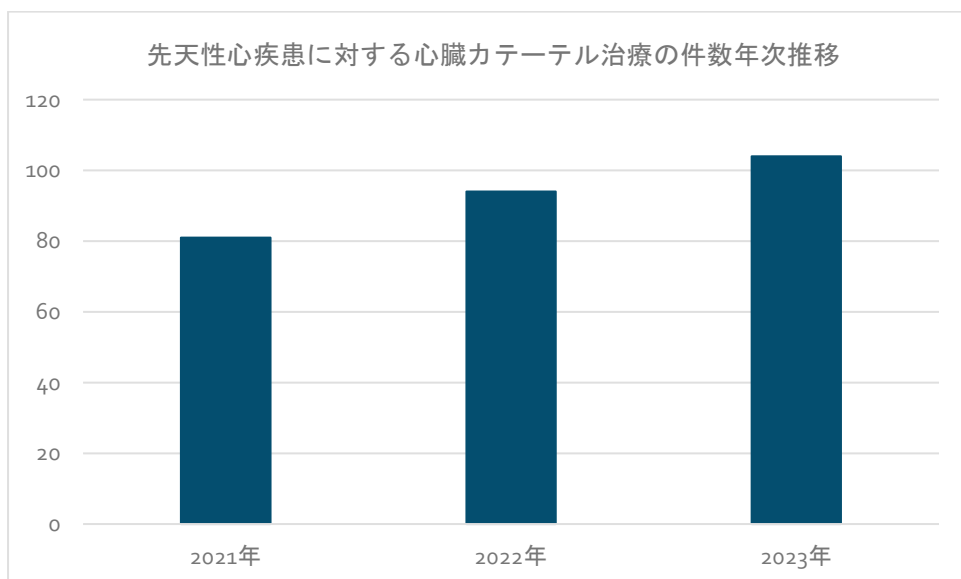
専門性の高い心臓カテーテル治療を数多く実施していることを外部に提示出来る。

他施設から治療のため紹介いただく際の指標として提示出来る。

目標・ゴールに対する成果の状況

104 件 （2023 年）

2021 年 81 件、2022 年 94 件から着実に増加し、目標を達成した。



目標・ゴール達成度

- ☐S :大幅に目標を上回った
- ☒A⁺:目標を多少上回って達成
- ☐A :目標を達成
- ☐B⁺:目標を少し下回った
- ☐B :目標を下回った
- ☐C :目標を大幅に下回った
- ☐- :外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの課題・改善策

肺動脈狭窄をともなう先天性心疾患の術後遠隔期に問題となる肺動脈弁閉鎖不全に対する、新しい治療、経皮的肺動脈弁留置術を導入したこともあり、目標を達成した。

今後引き続き紹介やさらなる症例の増加を図る。